

令和4年11月11日  
公益社団法人 日本伝熱学会 九州支部  
支部長 伊藤 衡平

日本伝熱学会九州支部 九州伝熱セミナー 開催案内

## 「エネルギーを考える」

主催：日本伝熱学会、九州支部

九州伝熱セミナーを企画しました。本年度もオンラインで開催いたします。会員皆様からのご参加をお待ちしております。

今回は少し違った視点からエネルギー問題を考えてみます。再生可能エネルギーありきのエネルギーシステムが検討され、またその方向に向かっています。昨今の情勢から、原子力発電への期待が再燃しています。我々伝熱学会会員もその趨勢にぶら下がり、関連する要素技術、あるいはシステム技術開発に従事しています。ここで一度立ち止まって考えてみませんか。再エネや原子力。正しいのでしょうか？正しいかどうかは多方面の視点、価値観から総合的に決まりますが、科学的な視点から再エネに、経済的な視点から原子力に関する話題を御提供いただき、みなさんと一緒に考えてみます。その上で、一技術者、一研究者はどのような貢献が出来るのか。そんな会です。

本セミナーへの参加には、事前申し込みが必要です。事前申込者に対してアクセス URL を開催前日までにお送りいたしますので、下記要領にてお申し込みください。

### 記

- 日 時 令和5年(2023年)1月20日(金曜日)14時30分～16時40分
- 形 式 オンライン Microsoft Teams (お申込み後に URL を開催前日までにお送りいたします)
- プログラム

#### 14時30分「原子力発電の“本当の”コスト」

松尾 雄司 氏 (立命館アジア太平洋大学・准教授、OECD/NEA 発電コスト評価専門家会合・副議長、総合資源エネルギー調査会発電コスト検証 WG・委員)

ウクライナ情勢に国内の政治情勢も相俟って、原子力発電への関心が再び高まっている。但し原子力のコスト、特に廃止措置や廃棄物処分、事故リスク等を含んだ費用については従来から議論も多く、それに応じて詳細な検討もなされている。また、再生可能エネルギーが大量に導入される際の原子力の経済性の評価も今後は重要となる。本講演では、これらについて国際機関・政府による評価結果や最近の研究動向も踏まえて概説する。

#### 15時40分「化石燃料から再生可能エネルギーへの転換」

斎藤 憲 氏 (大阪府立大学・名誉教授、科学史辞典日本科学史学会編丸善出版・編集委員長)

人類は常にエネルギー密度の高い、すなわち太陽エネルギー(宇宙活動のエネルギー)がより蓄積したエネルギー源を目指してきた。風、木(炭)、石炭、石油、原子力、核融合。他方で化石燃料の枯渇、環境問題も相まって、人類は再びエネルギー密度の薄い再生可能エネルギーに移行しようとしている。正しいのか？この問いに肯定的に答えるには、①供給に制限のない素材、②コストの許容、③分散することへの評価、からの検討が必要だ。国

内のエネルギー消費総量 1 万 8 千 PJ/年（人間生存のエネルギー100W/人の 50 倍近い）、総発電量 3 千 6 百 PJ=1TkwH/年を念頭に置いて、中央と地方の関係、人口密度によって最適解が異なる可能性、設備容量と稼働率の問題も考えていきたい。

- 参加費 無料（どなたでも参加できます）
- 参加申込方法

以下の URL または QR コードにアクセスいただき、アンケートアプリ Microsoft Forms から  
① 伝熱学会会員資格（正員、学生員、非会員）、② ご所属、③ ご氏名、④ メールアドレスを 2023 年 1 月 ~~6~~13 日（金）17 時までにご回答のうえ、お申し込みください。

URL <https://forms.office.com/r/1RtYdTmei3>

QR コード



なお、いただいた個人情報は、セミナーのアクセス URL の送付および参加者数把握の目的のみ利用し、それ以外には利用いたしません。

- 問合せ先

日本伝熱学会九州支部 事務局 九州大学 大学院工学研究院 機械工学部門 濱本 芳徳 宛  
mail: [y-hama@mech.kyushu-u.ac.jp](mailto:y-hama@mech.kyushu-u.ac.jp)

以上